

# 特別名勝 平城宮 東院庭園

## 東院庭園 関連年表

昭和42年(1967)	庭園南部の発掘調査、園池を確認
昭和45年(1970)	特別史跡 平城宮跡に追加指定
昭和51年(1976)	庭園中心部の発掘調査
昭和53年(1978)	庭園北部の発掘調査
昭和55年(1980)	庭園西部の発掘調査
平成5年(1993)	東院庭園復原整備開始、東院南門などの発掘調査
平成6年(1994)	東面大垣などの発掘調査
平成7年(1995)	南面・東面大垣(南東隅を除く)、東院南門、北東建物完成
平成8年(1996)	北側東西板塀完成、池の発掘調査
平成9年(1997)	中央建物・平橋・反橋完成、隅楼など庭園南部の発掘調査
平成10年(1998)	西建物・南北板塀2条・南面大垣延長部完成
平成11年(1999)	曲水などの発掘調査
平成12年(2000)	曲水と池の接続部の発掘、隅楼・曲水・大垣南東隅部完成、東院庭園復原整備事業完成
平成21年(2009)	名勝に指定
平成22年(2010)	特別名勝に指定



近鉄「大和西大寺」下車、徒歩30分  
JR奈良駅・近鉄奈良駅から西大寺行きバスにて「平城宮跡」下車、徒歩10分

休 園 日 : 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始休園  
開園時間 : 9:00~16:30(入園は16:00まで)  
入 園 料 : 無 料

## 文化庁文化財部記念物課

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2  
TEL 03-5253-4111(文部科学省代表)  
<http://www.bunka.go.jp>  
資料提供 : 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所  
イラスト : 早川 和子

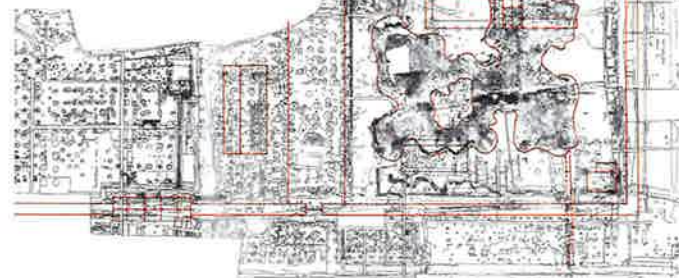
## 発掘調査

昭和42年(1967)、平城宮東の張り出し部分の南東隅に大きな庭園の遺跡が発見されました。この場所は『続日本紀』にみえる「東院」にあたることから、発見された庭園は「東院庭園」と名付けられました。この発見を契機に発掘調査を継続した結果、庭園部分とその周辺一帯の様相がほぼ明らかになりました。東院庭園は東西80m×南北100mの敷地の中央に複雑な形の汀線をもつ州浜敷の池を設け、その周囲にはいくつもの建物を配していたことが確認されました。



## 前期と後期

東院庭園の池は、奈良時代後半の大改修を境に大きく前期と後期の2時期に分けることができます。前期の池は汀沿いの池底に大きな玉石を帯状に敷きつめていましたが、後期の池では池底から岸にかけて全面に小石を敷きつめた浅い池となっていました。



赤 : 奈良時代後半の遺構 黒 : それ以前の遺構

## 池北岸の築山石組

「築山」とは庭園内に山水の景を造るために設けられた人工の山のことで、古くは「假山」ともいいました。石を積んで築いた「假山」の造営は、現在知られる我が国最古の事例です。



池から出土した遺物



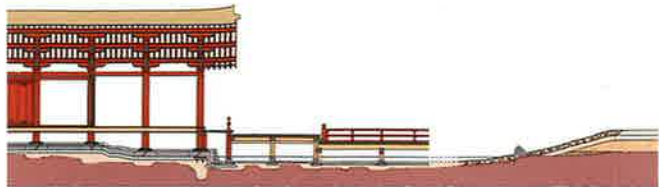
## 東院庭園の復原研究

発掘調査で見つかった建物跡の平面と雨落溝の関係から軒の出がわかるので、そのデータから軒先の組物を推定しました。このほか、出土した建築部材、柱穴に残る柱根などから建物の上屋構造を推定しました。また、飛鳥・奈良時代の現存建物や文献史料、絵図なども大きな参考資料となりました。



## 庭園地形などの復原整備

庭園地形の復原整備では遺構を守り、微妙な形状を表現するため、薄い土盛による保護を原則としました。遺構と類似した小石を池に厚さ10cm程度に敷き詰め、奈良時代の州浜を再現しました。露出している景石の多くは奈良時代の実物です。北岸の築山組では石の表面を強化し、割れていた部分は接着するなどの保存処理を施しています。



整備断面模式図

## 5 池の水と曲水

曲水は前期の遺構と思われるが、庭園の特徴的な要素であるため、復原の対象としました。材料は宮跡の発掘で採取した安山岩を再利用しています。



曲水検出状況(左)復原された曲水(右)

## 6 植栽の復原

植栽は庭園の景観をつくる重要な要素です。発掘調査によって採取した植物遺体を分析し、樹木を推定し、『万葉集』などの庭園描写を参考に選択しました。



発掘調査で出土した植物遺体

## 1 中央建物

発掘調査より法隆寺伝法堂の前身建物と良く似ていることから、これに従って復原しました。さらに、角柱の四隅を切りおとし断面が八角形に見える「大面取り」を施した柱が出土したことから、面取り部材を用いた古代の現存建物を参照して、部材のほとんどに面取りを施しました。



桁行5間×梁行2間の中央建物

## 2 北東建物

円柱を受ける平らな彫り出しをもつ礎石が出土しており、これから柱の直径が推定できました。構造と寸法は法隆寺食堂を参考に復原しています。池の北に建つ「亭」のような開放的な施設と考え、東西の妻面(側面)のみが壁で南北は吹き放しとしました。



桁行3間×梁行2間の北東建物



## 3 活用上の復原建物

建部門(東院南門)と玉殿をつなぐ道路の脇に設けられた「控の間」のような建物で、本来は東院庭園とは無関係の建物でした。復原事業では、庭園内に入るエントランスを兼ねた東院庭園のガイダンス施設として整備しました。



## 4 隅楼

見つかった柱は断面が正八角形で、柱の底には石や木の礎板を据えています。また、底面から30cmの位置に貫を通して腕木とし、その下に交差する枕木といった、手の込んだ作業からの建物が2階建てであったと考えられ復原しました。

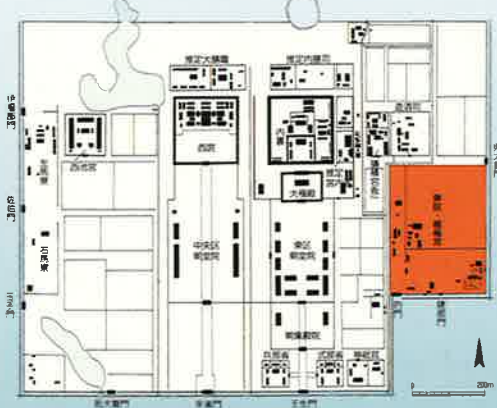


# 東院庭園

東院庭園で楽しむ人々

平城宮の東に張り出した部分は『続日本紀』に見える「東院」に当たります。昭和42年(1967)、その南東隅に大きな庭園の遺跡が発見され、平成7年(1995)から平成10年(1998)にかけて復原されました。これが「東院庭園」です。東西80m、南北100mの敷地の中央に複雑な形状の池があり、その周囲にいくつかの建物がありました。称徳天皇はこの近くに「東院玉殿」を建て、宴会や儀式を催しました。現代の迎賓館にあたるものです。「平城宮東院庭園」は、発掘・復原された特に貴重な古代庭園として平成22年(2010)に特別名勝に指定されています。

## 平城宮における東院庭園の位置



平城宮は、他の日本古代宮城には例のない東の張り出し部分を持ちます。この南半は、奈良時代に「東院」「東宮」と呼ばれていました。神護景雲元年(767)、称徳天皇はこの地に瑠璃色の瓦を葺いた「東院玉殿」を建て、その後、光仁天皇の建てた「楊梅宮」もこの地にあったものと考えられています。